

→ 6月・7月のイベント情報

6月

29日 板付弥生のムラ 田植え祭り

⇒右ページにつづく

※右ページに、参加募集の案内があります。

29日 記念シンポジウム「こういんめいたち庚寅銘大刀の謎に迫る」

※裏面に詳細を記載しています。

30日 めいのほま姪浜の獅子まわし（市登録無形民俗文化財）

場所：住吉神社ほか周辺（西区姪浜3-5-5）

7月

1日 かなたけ まる てん じんしゃ金武丸天神社の獅子ごもり（市登録無形民俗文化財）

場所：金武丸天神社ほか周辺（西区金武715）

1～15日 きおん やま かな博多祇園山笠行事（国指定無形民俗文化財）

場所：櫛田神社ほか周辺（博多区上川端1-41）

13日 なかにし みやじだけじんしゃ中西宮地獄神社の子ども獅子まつり（市登録無形民俗文化財）

場所：中西宮地獄神社ほか周辺（早良区西新5-8-19）

13日 の けい くだ じんしゃ野芥櫛田神社の獅子舞（市登録無形民俗文化財）

場所：野芥櫛田神社ほか周辺（早良区野芥4-24-4）

13日 た しま かくち田島神楽（市指定無形民俗文化財）

場所：田島八幡神社（城南区田島4-6-39）

13日 かなたけ みやう けん じん しゃ金武妙見神社の獅子まわし（市登録無形民俗文化財）

場所：金武妙見神社ほか周辺（西区金武1183）

13・14日 むと おか ぎおん だん元岡祇園ばやし・むと おか ししまい元岡獅子舞（市指定無形民俗文化財）

場所：八坂神社ほか周辺（西区元岡1599）

14日 とうのはら ぎおん やま かな唐原の祇園山笠行事（市指定無形民俗文化財）

場所：須賀神社とその周辺（東区唐原1-4-16）

19・20日 な た奈多の祇園祭

場所：志式神社・志式座（市指定有形民俗文化財）

（東区奈多1238-2）

20日 第2回埋蔵文化財センター考古学講座

「象嵌技術と謎の一字「練」をめぐる」

講師：鈴木 勉氏（工芸文化研究所所長）

25日 か ち賀茂神社の子ども獅子（市登録無形民俗文化財）

場所：賀茂神社ほか周辺（早良区賀茂1-29-14）

28日 いい もり飯盛の夏越しの獅子回し（市登録無形民俗文化財）

場所：飯盛神社ほか周辺（西区飯盛609）

→ 6月・7月のイベント情報

⇒左ページのつづき

7月

30日 ひがしいるべくもと東入部熊本本の獅子まわし（市登録無形民俗文化財）

場所：東入部熊本町内（早良区東入部2-14-46）

30日 ひがしいるべなかとおり東入部中通の獅子まわし（市登録無形民俗文化財）

場所：東入部中通町内（早良区東入部6-19-17）

31日 みやの うち宮浦の獅子まわし（市登録無形民俗文化財）

場所：宮浦三所神社ほか周辺（西区大字宮浦1157）

－ 板付弥生のムラ「田植え祭り」参加者募集 － 復元した水田を使って田植え祭りを開催します。

日 時 令和元年6月29日（土曜日）午前10時～12時

場 所 板付弥生のムラ（博多区板付3-21-1）

応募方法 電子メールにて、住所、参加する方全員の氏名、
年齢、電話番号を記入の上、送信ください。

アドレス：shiseki.EPB@city.fukuoka.lg.jp

募集定員 田植えに参加する保護者と子ども合計100名程度
（応募多数の場合は抽選となります）

応募締切 令和元年6月12日（水曜日）必着

問 合 せ 福岡市経済観光文化局 史跡整備活用課
（電話092-711-4783、FAX092-733-5537）

福岡市経済観光文化局文化財活用部

住所：福岡市中央区天神 1-8-1

TEL: 092-711-4666 FAX: 092-733-5537

文化財の保存・管理・活用に関すること

文化財活用課 TEL:092-711-4666

史跡の整備・活用に関すること

史跡整備活用課 TEL:092-711-4784

埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること

埋蔵文化財課 TEL:092-711-4667

埋蔵文化財の収蔵・保管・分析に関すること

埋蔵文化財センター TEL:092-571-2921

ホームページ 福岡市の文化財

<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも情報発信中！



Vol.21 2019年6月
～金隈遺跡・野方遺跡展示館の
リニューアル～

露出展示遺構の 改修が完了しました！

かぬのくま い せき かめ かん金隈遺跡甕棺展示館（博多区金の隈1）と、の かつ い せき野方遺跡住居跡展示館（西区野方5）では、たくさんの甕棺墓や竪穴住居跡など、弥生時代から古墳時代の遺構をほぼ発掘当時の状態で見学できます。

両館とも、開館から25年以上たち、金隈遺跡の遺構は、塩類により風化し、野方遺跡の遺構は、藻類の付着により外観の劣化が進んでいました。

そこで、平成29年度から閉館し、遺構の修復・保存処理や展示・解説スペースの改修などを進め、今年の5月11日に2館同時リニューアルオープンを迎えました。

改修の結果、両館とも遺構の表面は開館当時に限りなく近い状態にリフレッシュ！

展示・解説スペースは最新の研究成果を取り入れたうえで、より見やすく、わかりやすい内容・構成にしています。リニューアルした展示館に、皆さんもぜひ一度足を運んで、本物だけがもつ迫力を体感してみてください。



金隈遺跡での展示解説（5/18）



野方遺跡での展示解説（5/11）

～埋蔵文化財発掘ミュージアム～

埋蔵文化財行政50周年をむかえて

昭和44（1969）年4月、福岡市教育委員会に文化財を所管する文化課が発足し、本市の埋蔵文化財行政が本格的にスタートしました。今年度は、それから50周年の節目を迎えることになります。

文化課発足当時は、市内の埋蔵文化財の分布調査が行われていました。分布調査は遺跡の有無を判断するための基礎作業で、その成果をまとめた福岡市文化財分布地図は、埋蔵文化財行政の基礎資料として欠かせないものです。

この年に初めて行われた金隈遺跡の発掘では、弥生時代の甕棺墓が多数発見されました。

同遺跡は、昭和47年に国史跡となり、現在は覆屋の中で公開・展示されており、後の野方遺跡や鴻臚館跡等の公開・展示手法の先駆けになるものでした。

この50年間で発掘した場所は2,500か所を超え、今も市内のどこかで発掘が行われています。刊行した発掘調査報告書は約1,400集となります。これらの蓄積が博物館の展示や歴史講座、市史編さん事業に活かされています。これからも地域の歴史・文化の継承のため、より一層の調査の充実と公開・活用に努めてまいります。



発掘当時の金隈遺跡

～文化財の保存活用に関する基本方針～

ユニバーサルデザインへの取組

本年3月末、市は「福岡市の文化財の保存活用に関する基本方針」を公表しました。これは、多くの人と、力をあわせて、文化財を次世代に継承していくための保存活用の方向を明文化したものです。

ここでは、文化財の活用の柱の一つを「ユニバーサルデザインへの対応」としています。ユニバーサルデザインは、障がいの有無や言葉の壁等を超え、みんなが使いやすいもの、暮らしやすいまち等をつくるデザインのあり方です。

4月28日には、福岡市視覚障害者福祉協会のみなさんと板付遺跡（博多区板付3）の見学会を行いました。板付遺



福岡市視覚障害者福祉協会の見学

跡には、平成4～7年度に整備された弥生時代の復元集落やガイダンス施設「弥生館」があります。弥生館では、子どもや車いすの人も見やすい高さの展示台に当時の道具類の復元品がずらりと並び、誰でも触ることができます。当日は、レクチャー、復元集落見学、火起こし体験などを実施。協会のみなさんも五感を使って弥生時代の暮らしや文化を体験しました。今後も五感で感じる歴史と文化財の魅力発信を充実させていきます。



※福岡市の文化財の保存活用に関する基本方針

内容はホームページ「福岡市の文化財」からご覧いただけます。



※基本方針

～埋蔵文化財センターだより～

重要文化財が帰ってきました

本年3月に国の重要文化財指定答申を受けた^{こう いん めい た}庚寅銘大刀は、指定の手続きや、東京国立博物館での新指定品展などでしばらく東京に出張していました。

この度ようやく役目を終え、福岡に帰ってきました。現在、重要文化財に決まって以降初めて市埋文センターでの展示を行っています。^{つけたり}附指定された一括資料も、一挙公開。この機会にぜひ、センターにお越しください。



重要文化財指定元岡G群6号墳出土資料

○重要文化財記念展示「庚寅銘大刀展」

期間：5月25日（土曜日）から10月27日（日曜日）まで

※8月11日まで大刀の実物を展示しています。

場所：埋蔵文化財センター（博多区井相田2-1-94）

第3展示室

○記念シンポジウム「庚寅銘大刀の謎に迫る」

日時：6月29日（土曜日）

午後1時から午後5時20分まで（開場午後0時30分）

場所：天神スカイホール※埋蔵文化財センターではありません。

（中央区天神1-4-1 西日本新聞会館16階）

定員 先着250名

申込み不要、入場無料

来場者には図録、記念品を配布します。



コウコ